



第4回アジア・太平洋水サミット関連イベント 国際ウェビナー

5月18日(水)15:00~17:00に、国連環境計画(UNEP)と共催で「第4回アジア・太平洋水サミット」(4th APWS)の関連イベントとして、インドネシア政府、日本政府環境省、国連環境計画(UNEP)等からの代表者を迎え、ZOOMによる国際ウェビナーを開催した。

世界の水問題における湖沼の主流化に向けた具体的な行動や課題を議論した本ウェビナーはアジア・太平洋地域のみならず世界20カ国から135名の参加があった。

◇ 開会挨拶概要

・ ILEC 竹本理事長

湖沼は地球上の生態系において重要な役割を担っているにもかかわらず、世界の水を巡る議論やSDGsにおいて欠落している存在である。UNEA5.2において、インドネシア政府が提案し、加盟国から幅広い支持を得た決議『持続可能な湖沼管理』が採択された今こそ、採択された決議文に沿った「持続可能な湖沼管理」の実現に向けて、私たちが共に努力する時である。

・ 滋賀県知事

琵琶湖は、私たちの暮らしを映す「鏡」である。琵琶湖の周辺に住む私たちは、湖沼環境のために、生活を見直すことが必要である。更に、琵琶湖は地球温暖化の兆候を示し、「地球環境を見通す窓」としても機能している。

湖はエコシステムや人類にとって非常に重要な存在であるため、世界の水議論の中で湖沼の主流化を訴える。

◇ 基調講演及びパネルディスカッションの概要

・ 湖沼が身近でない人を含めた人々、特に政策決定者が湖沼の重要性を理解・納得する明確なメッセージの必要性(湖沼の調整機能の1つである気候変動の影響や自然災害を緩和する役割、象徴的な取組として国連総会での『世界湖沼の日』策定、水に関する会議やフォーラムを活用した世界の水問題における湖沼主流化の活動発信)

・ 湖沼流域利害関係者、特に住民の果たす役割の重要性と可能性

事例として日本における水循環基本法等の水に関する法律や滋賀県の取組

◇ ILEC 理事長の総括

世界の水問題における湖沼の主流化に向けた大きな一歩を踏み出す機会となり、ILEC としては湖沼に関する知見の集約と発信、2022 年秋（10 月）に予定している科学委員会総会・国際シンポジウム、更に 2023 年秋ハンガリーで開催を控える第 19 回世界湖沼会議につなげる。